

1. 研究の目的 家政学原論については今日までにすでに十余氏の論著があるが、その相互間に連絡が乏しく一家言の観がある。演者はそれを比較して最も正当と考えられる見解を立てようとするものである。

2. 方法 批評には超越的批評と内在的批評がある。前者はまず一定の基準を立て、それに合格するや否やをもって批評する。後者はその説の主張者の心を心とし、追体験し了解して、その説を演エキ布エンして矛盾がないかどうかをもって批評する。演者はその後者をとる。

3. 成果 家政学の定義、範囲、体系、性格を決定するにあたり、まずそのもとづく思想を検討すれば、常識論、独断論、唯物主義、プラグマチズム、理想主義の5型となる。性格については、社会科学とするもの、狭義の技術と生活に分けるもの、広義の技術学とするものの3型となる。体系については理論、歴史、政策(技術)の3分野を具えたもの、理論中心のもの、技術中心のもの、の3型となる。用語についての混乱が相互の一致を妨げていることも多い。以上を総合して理路整然たる家政学原論を形成するための基礎を築いた。